

じそんのかね

自尊の鐘



蕪崎西中学校 学校だより

2020.7.22. NO.9

発行責任者 校長 秋澤英俊

「人を敬い、いつくしみ、自らをたつとび高める」、校訓『敬愛自尊』のもとに、毎朝鳴らされる「自尊の鐘」。今日をどのように過ごし自分を高めていくのか、鐘の音を聴きながら「理想をめざし日に進む」(校歌)、生徒たちの成長の姿をお



自分の中に目標をつくるー県総体壮行会



コロナウイルスでたくさんことができなくなってしまう中で、3年生の最後の運動部の大会である支部総体も中止になってしまいました。しかし、県の小中体連が協議し、支部総体の代わりに県総体が予選なしのオープンの大会として開催されることになりました。3年生にとって3年間の部活動のまとめとなる大会が、例年とは違う形ではありますが、それぞれの部でできるようになったことを、まずは素直に喜びたいと思います。

東京オリンピック開催を決めた国際オリンピック委員会の総会で、日本のプレゼンターのトップバッターとしてスピーチをし、東京オリンピック招致の立役者の一人となった陸上のパラリンピアン、谷(旧姓佐藤)真海(まみ)さんは、ある雑誌の対談で次のようなことを話していました。

スポーツをしていると常に自分の中に目標ができるんです。もちろん目標が達成できない場面も多々ありますが、達成できなくてもさらにその次の目標を持つことができる。その目標設定や目標に向けた努力は、私自身の生き方のベースとなっています。それがそのまま勉強に生きることもある。・・・スポーツで身につけた集中力と目標設定・・・、スポーツで養った力は将来必ず勉強でも仕事でも生きてくるはずですよ。(帝国書院「階」No.43 2020.7.2発行)

スポーツがその人を前向きにし、それが生き方のベースになるというスポーツの素晴らしさに改めて気づくことができる話でした。ここでいう「自分の中の目標」とは、優勝とかベスト8とか、単なる結果についての目標ではないと思います。結果を得るために、どのようなことを大切にして練習するのか、競技や試合の時、自分はどのようなパフォーマンスをしたいのか、そのためにはどのような気持ちで臨むのか、自分と向き合い自分と対話しながら設定する、より具体的な自己目標なのです。

最後の大会に臨む3年生には、ぜひ「自分の中の目標」をもって戦ってきてほしいと思います。

一度はあきらめかけた部活動の大会ができることになり、壮行会で、少し晴れやかな、そして決意を秘めた顔で入場する運動部の選手たちを見て、本番では自分の限界にふたをせず、精一杯「自分の中の目標」を達成してほしいと心から思いました。

